

## ごあいさつ

国立大学法人鹿屋体育大学

スポーツパフォーマンス研究センター センター長

前田 明

鹿屋体育大学スポーツパフォーマンス研究センターにおける、令和2年度の活動実績をご報告いたします。今年度は、本センターもこれまでと異なる難しい対応を迫られる一年でした。予定されていた、オリンピック・パラリンピック東京大会、鹿児島での国民体育大会、全国障害者スポーツ大会のすべてが延期となりました。これまで本センターでは、これらの大会の出場を目指すアスリートへのサポートにも取り組んで参りましたが、大会へ向けたスケジュールが大幅に変わったことに加えて、移動が自粛されたことから、これまで来学いただいた多くのアスリートとお会いすることができなくなりました。今のところ、オリンピック・パラリンピック東京大会は令和3年度7月～9月に、鹿児島での国民体育大会、全国障害者スポーツ大会は、令和5年度に行われることから、それまでにできる支援があればと今後の可能性を想像しております。

一方、研究者がデスクにいることが多かったためか、これまでの成果を論文としてまとめて投稿する機会が多くなったようにも感じました。スポーツパフォーマンスを向上させるための実践的研究は例年よりも多く発表できたのかもしれませんが。とはいってもまだまだ十分ではなく、今後も引き続きの努力が必要です。

このような難しい1年でしたが、この1年で本センターをご利用頂いた利用者数は、令和元年度には及びませんでした。平成30年度と同等な数に達しました。ご利用頂いた皆さまに心から感謝いたします。また今後も様々な方々が利用するセンターとして、柔軟に対応できるよう準備して参りたいと存じます。

